

仏の願い

平成24年 西雲寺だより 冬号(29号)



当山

御正忌報恩講の

ご案内

11月28日(水)～30日(金)

28日お逮夜(2時)

お初夜(7時) (武周お講)

29日お日中(10時)

大逮夜(2時) (御伝鈔)

お初夜(7時) (御伝鈔)

30日満日中(10時)

法話 福井 野世信水師

(29日より)

お誘い合わせの上
ご参詣下さいますよう
ご案内いたします

親鸞聖人のご生涯

正像末和讃にみる信心の世界

正像末(しょうぞうまつ)和讃

親鸞聖人の晩年、関東教団は異義で混乱し、その異義の科で八十四歳の時、長男善鸞を義絶するという深い悲しみと、人生の挫折を味わわれることとなつたのです。それから一年後八十五歳の二月九日の夜に

弥陀の本願信ずべし
本願信ずるひとはみな
撰取不捨の利益(りやく)にて
無上覚をばさとるなり

という救世菩薩(聖徳太子はその化身)の夢の告げを受け、悲しみから本願を生きるものとして立ち上がり、本願によつて廻向される信心のよろこびを、正像末和讃として表わされました。正像末和讃は全体で百十六首ありますが、その中に「仏智疑惑(ぶつちぎわく)和讃」二十三首、「愚禿悲歎(ぶつとくひたん)和讃」十六首が含まれています。いづれも如来の願心の回向を生きるよろこびと本願に見いだされ、照らし出される身の罪の深さ、愚かさをうたい上げたものです。

浄土の菩提心

浄土の大菩提心は
願作(がんさく)仏心(ぶつしん)をすすめしむ
すなわち願作(がんさく)仏心(ぶつしん)を
度(た)衆生(しゆじやう)心となづけたり

(浄土の大菩薩心は、わたしたちに「仏になろうと願う心」をすすめます。その

よくな仏になろうと願う菩提心はまた「度衆生心」とも呼ばれます。)

これは報恩講の大速夜にあげられる七首のご和讃の第一首目です。正像末和讃のなかでも最も大切な和讃なのです。

親鸞聖人が身をおいていた法然上人の吉水の教団は、比叡山や奈良の聖道門(しょうどうもん)仏教から激しい弾圧を受け、聖人三十五歳の時、承元(じやうげん)の法難により、吉水の教団は解散させられ、聖人は越後に流罪となつたのです。聖道門仏教が法然上人の専修(せんじゆ)念仏の教えを弾圧した原因の一つは菩提心の問題だったので。仏教において菩提心は欠くことのできないものです。菩提心は上求菩提(じやうぐぼだい)下化衆生(げけしじゆじやう)といつて、私が仏になりたい、そして一切の迷える衆生を救いたいと願いをとおすことです。しかし法然上人は念仏を称えて本願に救われていく者は菩提心が必要としないといわれたのです。この事は華嚴宗の明恵(みやうえ)上人によつて厳しく批判され、親鸞聖人の大きな課題となつていたので。このご和讃はそれに応じるものといつてよいのでしよう。そもそも私たちには菩提心を起す心も、仏法を願う心もありません。この生死(しやうじ)の迷い、苦悩を厭(いと)う心もなく、仏法よりも大事な日常の生活であり、我が身の幸せ、健康です。私たちに菩提心をおこせといわれたら仏法は縁遠いものになってしまいます。このご和讃でいわれている、願作(がんさく)仏心(ぶつしん)・度衆生(たしゆじやう)心(しん)というのは上求菩提(じやうぐぼだい)下化衆生(げけしじゆじやう)心(しん)とは違(ちが)います。願作(がんさく)仏心(ぶつしん)・度衆生(たしゆじやう)心(しん)ともに如来のおはたらきです。如来の私を仏にならしめたいと願うおはたらきが、私にとどいて、浄土を願う仏になりたいという心となるのです。如来のご本願は一切の衆生を一人残らず仏にしたいという願いですから、私が浄土を願いたすかりたいというところは

「衆生と共に」ということです。浄土の大菩薩心は私一人たすかれればよいのではなく「皆共にたすかつていきたい」というところです。

弥勒に等し

五十六億七千万
弥勒菩薩はとしをへん
まことの信心うるひとは
このたびさとりをひらくべし

(五十六億七千万の後、弥勒菩薩はよくやく仏の覚りを聞くのです。ところが念仏によつて廻向の信心をいたしたものは、ただちに大涅槃を証する身に定まるのです。)

報恩講のお速夜にあげる七首のご和讃の最後のご和讃で結讃といわれるものです。大無量寿経上下二巻は、「仏告阿難(ぶつこうあなん)」と阿難を対告衆(たいこうしゆじゆ)として、如来の本願、そして本願によつて莊嚴された浄土と名号の利益とを説かれたものです。が、下巻も最後になると「仏告弥勒」と突然弥勒を呼び出して、阿弥陀仏の名号の利益広大なることを説き、弥陀の本願の末の世に広まらんことを予言して、弥勒菩薩に「大無量寿経」をゆだねておられるのです。弥勒菩薩は釈迦さま亡き後、この世に出て悟りを開かれて仏となる未来仏です。弥勒菩薩は金剛の菩提心、自力の菩提心を発された方の代表です。菩薩の格としては別格です。そして今は修行中ですが、五十六億七千万年後、衆生を教化するためにこの世に生まれて、龍華樹の下で三回の説法をされ、そこで初めて自利利他が成就し、よくやく弥勒菩薩は無上覚位を極めることができます。そして釈迦さまの後を補って衆生を教化されるのです。弥勒菩薩が仏になるには五十六億七千万という長い歳

月の自力の修行が必要なのですが、親鸞聖人は「まことの信心うるひとは、このたびさとりをひらくべし」といわれます。念仏によつて如来廻向の信心をいただいたものは、五十六億七千万年という長い歳月を飛び越えてこのたびさとりを開く身に定まるのだ。そしてこの愚かな身に大涅槃の徳が至り届いているのだと信心に賜わる利益をうたいあげておられるのです。私たちは未来に救いを求めるのではなく、如来廻向の信心が至り届いたその時に弥勒と同じ徳を賜わり、往生間違いないの位に定まるのです。ここに浄土真宗の救いがあるのです。

仏智疑惑和讃

正像末和讃の五十八首は、真宗門徒ならば誰でも知っている

如来大悲の恩徳は
身を粉にしても報ずべし
師主知識の恩徳も

ほねをくだきても謝すべし

という「恩徳讃」です。如来の大悲、そしてその大悲に生き、本願念仏の仏道を私にまで伝えて下さったお釈迦さま始め、七高僧、特に法然上人の恩徳を報ずべし、謝すべしとしたいあげられたものですが、続いて「仏智疑惑和讃」二十三首をつくっておられるのです。それは「報ずべし、謝すべし」身でありながら、仏智を疑惑してやまない自己の姿が照らしだされてその深い悲しみをうたわれているのです。

不了仏智のしるしには
如来の諸智を疑惑して
罪福(さいふく)信じ善本を
たのめば辺地(へんじ)にとまるなり

(私たちは、本願を信じ念仏申して浄土に往生していくことをよろこばしていた

だきながらも、実際は罪の報いを恐れ、自分の幸せのために念仏申しているのです。そのような仏智におまかせできない人は浄土のかた隅にしか生れることはいきないのです)

仏智の不思議をうたがいて
自力の称念(しょうねん)このむゆえ
辺地(へんじ)憊慢(けいまん)このむゆえ
仏恩報ずる(ぶつおんほうする)ころなし

(私たちはお念仏申しても、仏智の不思議におまかせすることができず、自分の善根功徳としての念仏を励んでいるのです。そこには自分はこれだけ念仏しているのだという、善人根性があり、慢心があるのです。そのような人は仏恩を報ずる心もなく真実の浄土に生れることはいきないのです)

自力の心をむねとして
不思議の仏智をたのまねば
胎宮(たいぐう)にうまれて五百歳
三宝の慈悲にはなれたり

(私たちはご本願を固く信じておりますといつてもそれは自分を信じているのであって実はご本願を疑っているのです。お念仏も自分の了解したお念仏であつて、仏智の不思議を信じていないのです。そのような人は胎宮に生まれて、仏、法、僧の三宝の慈悲から離れていくのです。胎宮とはお母さんのお腹の中にいる状態で居心地がよく、そこから出ようとしたいのです。つまり教えを聞かせていたかどうかという意欲のない世界です)

仏智(ぶつち)うたがうつみふかし
この心おもいしるならば
くゆる(くゆる)ころをむねとして

仏智の不思議をたのむべし

(私たちは自己に執着し、我執を一步もはなれることができないものだから、如来を「たのむ」ことができないのです。私たちはその悲しみのところに仏智の不思議に初めて出遇わせていただくのです)

久遠劫来(くおんごうらい)無明(むみやう) (真実の智慧のな
いこと)の世界に沈んでいる私たちは、どれ
だけ仏法を聞かせていただいても仏智を疑
い、自分を信じて仏恩報ずる思いなどない
のです。「正像末和讃」が「恩徳讃」でおわ
つておるならば私たちは親鸞聖人の教えに
救われることはできないのではないでし
うか。

みわこの目からウロコ

仏智疑惑和讃?

これ、とっても魅力的です!!

「ただ念仏」するだけで救われるって、それが一番難しいんだよなあって、感じているのは私だけではないとは思っていましたが、まさか親鸞聖人もそうだったとは!!もしかしたら親鸞聖人も「自分も「ただ念仏」が出来なくて日頃から苦しまれていたんじゃないかと思えます。

疑いの心はフツフツと沸き起(こ)り、自分だけは幸せでいたいという欲求が邪魔をして、「ただ信じて念仏する」たったそれだけのことさえ満足に出来ない私たちの本性を、しっかりと見抜いた上で、まごど認めてくださっている、私はこの部分を読みながらとても嬉しくなりました。そして、それが難しいと分かっているながら、それでも救われる道は「ただ、念仏」する事なんだと言いつける、そこに親鸞聖人の厳しさと愛を感じます。

寄稿

お念仏

私は八十近くになって、思いがけぬ苦に出合いました。そのお蔭で有難い仏縁に出合えた事、本当に嬉しかったです。生まれがたき人間界へ出させて貰えたのも、仏さま、父母のおかげさまと聞かせて頂き、勿体ない気持ちになりました。

何の為に人間に生まれてきたのかも分からない恥ずかしい私でした。だんだんと聞かせて貰っているうちに、仏さまの教えに遇う為と分かりました。仏さまの光に照らされると、悪業煩惱を作りについた私の人生、本当に恥ずかしいです。地獄の底の底にいる事が分かりました。このままだったら一生地獄、何とか少しでも上に這い上がりたい気持ちになりました。

それには聴聞以外にないと、何時も聞かせてもらいました。お念仏、

お念仏より外に何もないと気がつきました。でも私の念仏では絶対駄目です。私のお念仏は、自分にとって都合のいい時にはひとり出ます。まことのお念仏は少ないです。同行さんに教えてもらいました。同行さんは「仏さまは本当のお念仏は苦しい時、辛い時、大きな問題の時こそだ」という事を、ちゃんとお見通しですよ」と聞かせて貰い、ああそうだったのかと納得する事が出来ました。

私ももう八十半ば、いのちは何時終わるか分かりませんが、仏さまと二人連れを忘れず、寝ても覚めても自分の思い計らいを出ることのできない愚かな自分を忘れず、一声でも多くお念仏ができるよう頑張ります。

お念仏より外に何もありません。

南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏

(匿名希望)



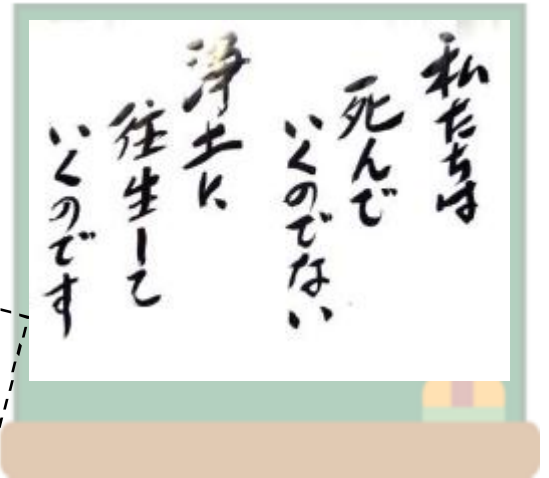
玄関前のしだれ桜の幹です。ほとんど皮だけで上部を支えているようです。

お寺
あれこれ



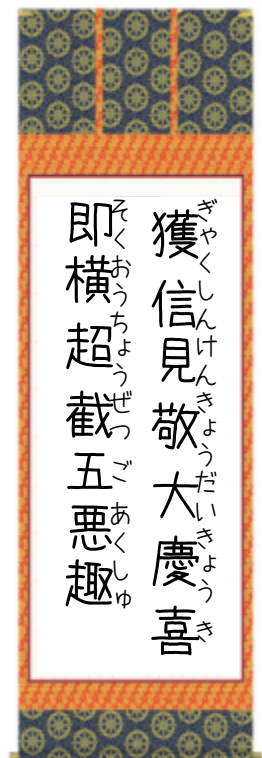
ほんこさんの時に咲いていなかったのでご紹介。竜の頭はピンクでした♪

山門掲示板



私たちは、ただ年をとり、死んでいくだけの人生をおくるならば、いくら健康や財産に恵まれ、地位名誉があっても、何か淋しさ、虚しさを感じえません。それは、現在が何か不安で、未来に希望がもてないからです。生きている中に誰もが持っているこの不安や虚しさを手がかかりに、私たちは仏法を聞かせていただくのです。そして人生において本当に信じえるもの、真実の拠り所となるものを見出し出していくのです。その真実の拠り所が私の帰って行く処なのです。如来さまは私たちに、迷いの衆生、苦悩の衆生よ、どうか念仏申して、我が国に生れてくれと誓われ、呼びかけ続けていて下さっているのです。私たちはその如来の本願を聴聞し、本願の中に自分を見出し、本願を生きるものとならせていただくのです。(住職)

『正信偈』に先輩の感動あり



読み方

信しんを獲えて見みて敬うやまい大おおきに慶喜きょうぎすれば 即すなわち横よこに五ご悪趣あくしゆを超截ちようぜつす

意味

本当に弱くて汚いのはこの私であったと心底納得し、逆に今まで踏みつけてきたものが尊く見えた時、傷付け合う悲しみがひっくり返されて、敬い合うという喜びを知るのです。



☆そうか！救われるっていうのは「敬い合う」っていうことだったんだ！
★老いとか病いとか死とか、本当につらいことまで敬っていった先人って、いたのかな？



お内陣修復に
先立って
工事して
いただきます

ご寄付いただくことになりました

白丸で囲った部分(妻壁の部分)
東面・西面とも、小動物が入らないよう
ヒノキ板で修復していただきます
寄付して下さるのは
小林豊さん 吉川芳弘さんです



外壁を修繕し、サッシを入れて
明るくしていただきます

みなさんの
ほんこさん



自分のこととして仏法を
聴聞させていただきました



皆さまようこそ☆



心づくしのおとき



一緒にコーラス♪

発行

真宗仏光寺派 専念山 ^{さい うん じ}西雲寺
住職 護城一寿
筆頭総代 吉川芳弘
編集責任者 護城一哉
〒910-3523 福井市武周町5-2
電話 0776-97-2138
メール kngojo@mx3.fctv.ne.jp
ホームページ http://arukou.net/

次世代の方、分家された方に！

お手元に2部届いた時には、ぜひ
ご活用下さい。

みなさんの声 大募集！

原稿や作品はもちろん、ご意見、
ご感想など、どしどしお寄せ下さい。
郵送でもメールでも構いません。お
待ちしております。